

早わかり！ 単元計画の作成手順 ～中学校 国語 第2学年〔B書くこと〕を例に～

Step1 単元で取り上げる指導事項の確認

- ・年間指導計画や生徒の実態等を基に単元で取り上げる指導事項を確認します。

Step2 単元の目標と言語活動の設定

- ・Step1で確認した指導事項をもとに、単元の目標を設定します。
※〔知識及び技能〕は、国語で理解したり表現したりする様々な場面で生きて働く力として身に付けることが大切です。そのため、〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕を相互に関連させながら育成することを目指します。
※〔学びに向かう力、人間性等〕については、いずれの単元においても当該学年の学年目標である「言葉が持つ価値～思いや考えを伝え合おうとする。」までを示します。
- ・単元の目標を実現するために適した言語活動を、言語活動例を参考にして位置付けます。

★Step1・2では、解説p40～の「各学年の内容」で、取り上げる指導事項の内容の具体を確認することが大切です。例えば、「根拠の適切さを考える」とは、「**書こうとする根拠が自分の考えを支えるものであるかを検討することであり、その根拠が確かな事実や事柄に基づいたものであること、自分の考えが事実や事柄に対する適当な解釈から導き出されていること**などが、適切さを考える観点となる」と詳しく説明されています。

★あくまで目標は資質・能力の育成であり、言語活動はそのための手段です。言語活動から単元構想をしないように注意しましょう。



Step3 単元の評価規準の設定

<評価規準作成のポイント>

- 「知識・技能」及び「思考・判断・表現」の評価規準作成のポイント
 - ・基本的に、当該単元で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項について、その文末を「～している。」として、**評価規準を作成する。**
 - ・育成したい資質・能力に照らして、指導事項の一部を用いて評価規準を作成することもある。
 - ・「思考・判断・表現」の評価規準については、その冒頭に、当該単元で指導する一領域について、「(領域名)において」と明記する。
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準作成のポイント
 - ・「粘り強さを発揮してほしい内容と自らの学習を調整しようとする側面の双方を適切に評価できる評価規準を作成する。
 - ・次の①～④の内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて、その組合せを工夫して作成する。〔①粘り強さ ②自らの学習の調整 ③他の2観点において重点とする内容 ④当該単元の言語活動〕

作成例

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。	・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加え、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。	・自分の意見が伝わる文章になるよう、進んで、根拠や具体例が適切かどうかを見直そうとしている。

Step4 単元の指導と評価の計画の決定

「指導と評価の計画」を作成する際には、主たる学習活動の流れに沿って、**どの時間に何を評価するかを整理**します。このとき、評価する内容は、「単元の評価規準」と対応していることが重要です。評価方法についても、評価する内容をそれぞれ評価するために、どのような方法で評価するかを確認しておきましょう。

また、生徒全員の学習状況を記録に残す場面を精選するとともに、単元の目標の達成状況を確実に把握するため、「指導と評価の計画」を立てることが重要であることをご確認ください。



時	主な学習活動	指導上の留意点	評価
1	○SDGsを題材にした意見文を読み、学習の見通しをもつ。 ○日本ユニセフ協会のウェブサイトアクセスし、各自が取り上げたいテーマとそれに対する意見を考える。	<ul style="list-style-type: none"> これまでの「書くこと」の学習を想起させ、学習計画を立てさせる。 自分たちが行動の主体であることを意識させて、取り上げたいテーマとそれに対する意見を考えさせる。 考えがまとまった生徒からエクセルシートに入力させ、共同編集機能により、互いのテーマを確認できるようにする。 	
2	○意見文を書くために必要な資料及びその収集方法について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 第1時で扱った素材文を再読し、意見と根拠をマーカーで色分けさせる。 意見に対する根拠の書かれ方が異なる意見文を示し、根拠の示し方には様々あることや、根拠の適切さとはどういうことかについて考えさせる。 自分の意見を支える根拠には、どのような資料が必要かを具体的に考えさせる。 	<p>※指導に生かす評価（記録には残さない）として実施</p> <p>〔知識・技能〕 観察・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ①マーカーで正しく色分けされているか ②根拠が意見の拠り所となるものであることを理解しているかを確認する。
3	○意見とそれを支える根拠をワークシートに整理する。	<ul style="list-style-type: none"> 意見を支える根拠として必要な情報を収集させ、ワークシートに整理させる。 グループで互いの意見が確かな事実や解釈から導き出されているかを検討させる。 グループ活動での意見を踏まえ、ワークシートを見直し改善させる。 必要に応じ、新たな情報の収集をさせる。 	<p>〔思考・判断・表現〕 ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> グループ活動での意見を踏まえ、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を見直したり説明を加えたりしているか確認する。
4	○構成を考え、意見文（400字程度）を書く。	<ul style="list-style-type: none"> 前時に整理したワークシートをもとに、意見文の構成を考えさせる。 ワープロソフトを使って意見文を書かせ、意見と根拠を色分けさせて、根拠が適切かどうかを確認させる。 確認後、修正が必要な箇所については、見え消しで修正させる。 	<p>〔主体的に学習に取り組む態度〕 観察・意見文・ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の意見が伝わる文章になるように、進んで、根拠や具体例が適切かどうかを見直そうとしているか確認する。 <p>〔思考・判断・表現〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 根拠の適切さを考えて説明を加えるなど、自分の意見が伝わる文章になるように工夫しているかどうかを確認する。
5	○互いの意見文を読み合い評価する。 ○単元を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 意見を支える適切な根拠が示されているかを相互評価の観点とし、意見文を読み合うようにさせる。 単元を通して、できるようになったことや今後の学習や生活で生かせそうなことについてまとめさせ、数人に発表させる。 	<p>〔知識・技能〕 評価シート</p> <ul style="list-style-type: none"> 他者の意見文を読み、観点に沿って評価しているか確認する。

単元の指導計画を作成する際には、目標として設定した資質・能力を確実に身に付けさせるため、以下のような工夫も必要です。

- ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得に課題がある場合には、**その確実な習得を重視すること**
- ・主体的に学習に取り組む態度を育成する観点から、**生徒が自ら試行錯誤したり再検討したりする場を保障すること**



Step5 評価の実際と手立ての想定

・それぞれの評価規準について、実際の学習活動を踏まえて、「Bと判断する状況」を具体的な生徒姿で想定するとともに、「Cと判断する状況」の生徒に対する手立てを想定します。

- ・評価の実際について想定する際には、以下について授業者が明確にしておく必要があります。
① いつ（学習場面） ② 何を（評価材） ③ どのように（Bと判断する生徒の具体的な姿）
また、③については、何が書かれていればBと判断するのかを「キーワード」等で整理するなどの工夫も考えられます。
- ・グループで成果物を作成したり複数名で言語活動を行う場合には、個の資質・能力の定着をどのようにして見取るのかを明確にしておくことも必要です。



第5時では、生徒それぞれが書いた意見文を読み合い、相互評価を行います。その際、以下のよう
な評価シートを使用するなど、何をどのように評価するのかを明確にしておくことが大切です。



実際の学習活動を踏まえた第5時の評価の実際と評価材（ワークシート）の例

（第4時に作成した生徒意見文）

私の住む町では、今年から標準服が採用された。男女兼用のデザインでどれを選んでもよいことになっている。私は、全ての学校で制服は自由に選べるようにするべきだと考える。

現在、標準服の採用が広がってきているものの、標準服がない学校で悩む生徒もいる。都立高校に通う生徒の「私にとって制服は自分を否定するようなものだった。毎日学校にあるべき姿を強要されているように感じていた。」という言葉も紹介されていた。日本に3〜8%の性的マイノリティの人がいる現状からすると、私たちの学校にも悩みを抱えている人はいるかもしれないし、その人たちへの配慮は必要だ。

また、制服会社の意識調査によると、制服を着ることで、個性や思考が制限されると回答した学生は、三十八・一%となっている。私自身、制服を着ることに違和感はないが、決めつけられることには不安や不満を感じることもある。

全ての学校で制服が自由に選べるようになり、「ジェンダー平等を実現しよう」に近づくために、この取り組みのよさを伝えていきたい。

相互評価の際に使用した<評価シート>

()さんの意見文			評価シート 二年()組()番 ()
観点① 意見は何か	観点② 根拠は何か	観点③ 根拠は意見を支えるものとして十分か	
意見 全ての学校で制服は自由に選べるようにするべき	根拠 都立高校に通う生徒の言葉 日本に3〜8%の性的マイノリティ 制服会社の意識調査 ↓個性や思考が制限される38.1%	理由 十分 不十分 根拠として、制服会社の意識調査や性的マイノリティの割合などの客観的事実と具体的な高校生の言葉が書かれていて、制服が自由に選べないことを不快に感じている人がいることが伝わるから。	
アドバイス もっとよくなる	高校生の意見は何から見付けたのかを書くと言説力が増すと思う。		

- この生徒は、第2時の学習をもとに友だちの意見文から意見と根拠について読み取るとともに、示された根拠が意見を支えるものとして十分かどうかを考え、理由としてまとめることができているため、意見と根拠の関係を理解していると判断し「概ね満足できる状況」(B)とした。

上記評価シートの場合、指導事項と照らし合わせ、観点①②③の全てについて、適切に書かれていれば、概ね満足できる状況(B)と判断できます。あわせて、「もっとよくなるアドバイス」の欄について、根拠の適切さの観点から、観点③を踏まえ、さらにアドバイスが書けていれば、「十分満足できる状況」(A)と判断するようにしています。

